

### ★ご挨拶

このところ廃棄物の新しい用途や、よりエコな処理方法が開拓され、今後の廃棄物業界が進む1つの方向性が示されたと感じています。

古着を燃料として駆動するデロリアンを開発した「FUKU-FUKUプロジェクト」や、京都工芸繊維大学と慶応義塾大学が発表した、ペットボトルを分解する最近など、読者の方も耳にされたことがあるのではないのでしょうか。

このような先進的な取り組みもあれば、一方で日本の伝統的な取り組みが見直される事例もあります。

先日参加したセミナーでは、公園などに落ちている枯れ枝を利用した「エコストーブ」や木質ペレットを使用して発電を行う、といった木質燃料に注目した事例を、地方創生を絡めて紹介されていました。

同じ熱量にお金を払うなら、最終的にアラブにその金額のほとんどが流れてしまう石油を購入するより、木質ペレットを購入し地元企業が潤う方が、経済的な観点でも良いのではないのでしょうか。

さて、今月のCSRニュースですが、「木」というキーワードで最近相談頂いた事例を紹介します。

### ★オフィスデスクを廃棄処分するケース



年度末などで事務所の整理をする時期になると、壊れて使えなくなったオフィスデスク等の廃棄依頼をよく頂きます。

オフィスから排出される廃棄物は、種類によって産業廃棄物か事業系一般廃棄物に分類されます。オフィスデスクは外見だけ見れば金属やプラスチックで構成されているので、産業廃棄物の「金属くず」や「廃プラスチック類」として処理委託されている排出事業者様も多いのではないのでしょうか。

しかし、事務机は上部の天板を外すと中から木の板が出てくるケースが多いのです。そのため、事務机は正確には「金属くず」「廃プラスチック類」「木くず」の3種類に分類されます。

因みに、木くずは廃棄物処理法にて「業種指定」というものに該当し、ある業種以外から排出される木くずは事業系一般廃棄物に該当する、とされています。

では、オフィスデスクは産業廃棄物として処理委託してよいのか、という疑問が湧きます。

### ★廃棄物はどこまで分別すべきか



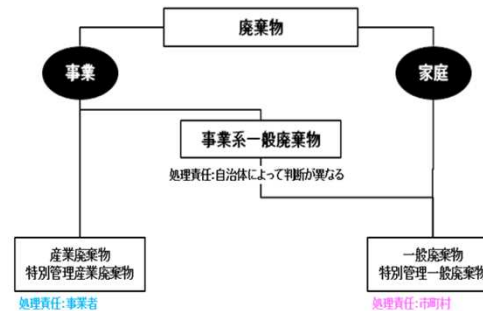
「混ぜればゴミ、分ければ資源」という言葉が示す通り、産業廃棄物処理の基本は“分別”ですし、行政もそのように指導しています。また、分別することで処分費用が安くなる、というケースもあるので、廃棄物を種類毎に分別することは環境にもお財布にも優しいことは明らかです。しかし、やみくもに分別すればよいという訳ではありません。

例えば、処分方法が「焼却」からの「埋立」だった場合、分別することに何の意味もありません。

処分方法をよく理解し、どこまで分別すべきかを廃棄物処理業者を交えて、しっかりと検討する必要があります。

では、先ほどのオフィスデスクの場合はどうでしょうか。当社の場合、オフィスデスクは、「圧縮して、溶かして金属原料として再生」という処分方法を採用しており、当社に委託される場合は分別するメリットは余りありません。

### ★総体産業廃棄物、総体一般廃棄物という考え方



産業廃棄物処理の基本は分別ですが、中には金属とプラスチックがガッチリと結合し、機械を使わなければ分別できない状態のもの（これを「一体不可分」といいます。）も存在します。

このような場合、「総体として産業廃棄物」、「総体として一般廃棄物」と扱う考え方もあります。産業廃棄物と一般廃棄物の割合、どちらが多いかで判断をする、という考え方もあります。

一体不可分の廃棄物の取り扱いや判断基準について、廃棄物処理法で明確な定義はされていませんが、法律の目的に立ち返ると、廃棄物はできる限り種類毎に分別すべきこととなります。しかし、排出事業者様が自ら分別設備を導入することは難しいため、基本的には手作業で分別することとなります。「排出の段階で手作業で分別できない廃棄物は一体不可分」と見なし、と読み取ることができます。その考えに則ると、オフィスデスクは「総体として産業廃棄物」と考えても差し支えないと考えられます。

### ★今月のコラム ～車型タイムマシンを廃棄物の目線で検証～

タイムマシンと聞いて思い浮かぶのは、小学生の少年を助けるために未来からやってきた、青い猫型のロボットが乗ってきたものが有名ではないでしょうか。私も幼少期によくテレビアニメを見たものですが、「あんな板みだいなタイムマシンに乗っていて、もし落ちたらどうするんだろう？」という恐怖心を抱いていました。

そんな時、衝撃的なタイムマシンに出会いました。それが、映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」で過去や未来へタイムスリップするために、デロリアンという車を改造したタイムマシンでした。映画第2作目では、博士の「ドク」がゴミ箱から拾ったバナナの皮や空き缶を「Mr. FUSION」と書かれた発電機に入れてタイムマシンを起動します。この発電機、生ゴミを原子レベルまで分解して、核融合反応で発電するようです。当時、ゴミを散らかしてはよく叱られていた私としては「これさえあればゴミ問題解決だ」と、ほくそ笑んでいました。思えば、私がゴミ処理に興味を抱いたのも、あの映画がきっかけだったのだと思います。

そんな、幼心（男心？）をくすぐって止まないデロリアンですが、廃棄物処理法的に引っかけることはないのでしょうか？今月以降で検証していきたいと思います。



発行：株式会社浜田  
CSR担当：今井  
TEL：072-686-3500